

NMSH Topics 21

VOL.

September 2018

今月の

院長のイチオシ

【糖尿病・内分泌
代謝内科】

糖尿病治療に豊富な実績

内分泌疾患の診断にも注力

院内他科との密な連携

I型糖尿病にSAP療法導入 教育入院を通じた生活改善も

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病、脂質異常症、肥満症、高血圧などの生活習慣病、および間脳下垂体疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、膵内分泌疾患、性腺疾患などの診療を行っています。

糖尿病診療においては、地域の医療施設の先生方と連携して進めており、血糖コントロール不良例をご紹介いただいた際には合併症対策を含む新たな治療計画を立てて対応しています。糖尿病は患者さん自身が正しい知識に基づき生活習慣を改善していくことも重要であり、そのきっかけとして2週間の教育入院プログラムをお勧めしています。I型糖尿病にはSAP(持続皮下血糖測定機能を搭載したインスリンポンプ)療法の導入も実

施。外来では、栄養指導やフットケア予防を含めた療養指導士による面談など、各部署のメディカルスタッフとチームを組んで患者さんを支援。

また、がん化学療法や外科手術など、他の疾患の検査・治療を目的に入院された糖尿病合併患者さんの血糖管理も役割とし、併診によるサポートに加え、退院後は症状が落ち着いた時点でご本人の同意を得て紹介元施設へ診療を引継ぎます。

内分泌疾患は糖尿病、高血圧、肥満など生活習慣病と同じような症候の中に潜んでいることがあり、例えば一部の高血圧の患者さんにおいて原発性アルドステロン症が原因となっていることが知られています。当科ではこれら副腎疾患を始めとして下垂体疾患、甲状腺・副甲状腺疾患の診断・治療についても豊富な経験をもとに対応しております。どうぞ遠慮なくご相談ください。



糖尿病・内分泌代謝内科の医局員



SAP (Sensor Augmented Pump) インスリンポンプにパーソナルCGM機能を搭載したシステム。血糖値がリアルタイムで変動グラフとなり表示される。身体に着けたまま就寝、入浴など日常生活を送ることが可能